

## 大乘地域協働の町づくり（環境衛生部会講演会）

1. 期日 平成23年11月13日（日）10時～
2. 演題 やってみよう ごみの減量  
「3R」は地球を救う合言葉
3. 講師 住田典子先生  
（財団法人 広島県環境保健協会 地域支援課）



### 森下一志会長挨拶

「みなさんおはようございます。」環境衛生部会の会長森下でございます。まず、ご挨拶の前に3月11日の東日本大震災においてお亡くなりになられました皆様の御霊に対し心よりご冥福をお祈りいたします。また、現在仮設住宅において困難な生活をされている被災者の皆様に心よりお悔やみを申し上げます。

本日は、休日でお忙しい中ご参会をいただきましてありがとうございます。

大乘地区協働の町づくりはネットワークは、今年の3月「輝く おおのり 瀬戸のまち」をキャッチフレーズに、住みよい町づくりを目指し発足いたしました。

その間、福祉・交流部会は、大乘小学校6年生の児童により、学校横護岸に壁画を制作しました。また、防犯・防災部会は防災訓練を実施いたしました。

環境衛生部会は、本日遅らばせながら講演会を開催することになりました。本日の講演内容は、今、地球環境は大きく変わろうとしています。3月11日に発生しました東京電力福島原子力発電所の事故をきっかけにエネルギー問題・或いは、日本各地に発生しましたゲリラ豪雨。海外におきましては、地震やタイの高潮による被害等多く発生しております。環境問題が全て起因しているとは証明してはいませんが、地球温暖化によるものが一因ともいわれています。地球温暖化は耳にしますがなかなか自分で何かに取り組むということにはなかなかありません。

私たちの子どもや孫が将来にわたって暮らし易い地球環境を残していくために一人ひとりが身近なところから取り組み、大きな輪となり、大きな成果となります。

今日の講演は、身近なところから出来る取り組みを紹介し、まずは皆さんが環境問題の取り組みを実施し、限られた資源を大切に使うための講演です。

また、今日参加を頂けない方にも皆様から内容をお話をしていただき、環境問題に関する意識が地域全体に広がる事を願っております。

本日のキャッチフレーズを私なりに考えました。「皆さんが変わり 大乘地域を変える」「変わる」「変える」で大乘の環境を守っていければと考えています。

それでは、本日の講師の先生の紹介をします。財団法人広島県環境保健協会地域支援センター地域支援課長 住田典子先生です。小中学校における環境学習や公民館・市民団体において環境学習やごみ減量問題地域支援活動・大学における環境教育・ごみ減量問題等、経験豊富な先生です。それでは先生よろしく申し上げます。

### 住田典子先生講演 演題 「やってみよう！ごみ減量 「3R」は地球を救う合言葉

「おはようございます。」 マイクを使わずに話をさせていただきますが、後ろの方は聞こえますか。私の正しい肩書は、「容器包装廃棄物抑制推進委員」容器や包装を減らす取り組みを進めることです。簡単にいえば、ごみの減量を推進する活動です。3Rというのは、ごみ減量推進の合言葉です。

ごみ減量のマイスターは、広島県に2人しか居りません。もう1人は福山市におられます。私は広島市におり、県内に2人です。貴重な存在です。ほとんど知られていない貴重な存在です。

今日のタイトルとして「やってみようごみ減量」「3Rは地球を救う合言葉」で話をさせても

らいます。

私が勤めているのは、広島県環境保健協会というところで、何をやっているかという環境と保健と2つの言葉が有るように、健康に関わる言葉があるように、環境に関わる調査や検査を行います。

保健では、健康に関わる人間ドックやクリニック・移動検診を行ったり、食品や飲料水の検査を行うところもあります。

地域支援課は、地域の方で健康づくり・環境づくりの取り組みが行われる。そのお手伝いをしていく部署である。

竹原市は、協働の町づくりを進めておられ、パンフレットなども作られているが、大きなテーマ「住んでよかった！ 住みたい個性のあるまち竹原」を目標にして協働の町づくりを進めておられます。日本何処でも高齢化が進む中で、自治会だけでの活動が困難な状況にあります。そのため、自治会を中心にし、住民・企業・市民団体・NPO法人・行政等、対等な立場で話し合い・確認・役割分担をし、信頼の関係の下で町づくりを展開していく事が目標です。

### 協働のまちづくりのメリットとして

#### ○ 課題を解決

- ・高齢者や障害者の安否確認・防災・防犯・道路の危険個所の修繕・清掃活動
- ・ひとつ（一人・一団体）の力では限りがあり、たくさんの人・団体が関わることで解決できる事が増える。

#### ○ 楽しみや新しいことを始める。

- ・まつりの開催・新しい行事・事業をするなど
- ・同じような行事なら一緒に開催することで、予算・規模・集客も大きくなる。関係者の負担も少なくなる。

今日は課題解決という視点から、環境保全に関して『ごみの減量』についてお話しします。

#### 「環境」とは

- ・取り囲んでいる周りの世界
- ・人間や生物の周囲にあって、意識や行動の面でそれらと相互作用を及ぼし合うもの
- ・自然環境や社会環境などがある。

#### 環境問題とは

- ・小学生の子ども達から「環境問題ってなにがあるの？」と聞かれたらどのように答えますか？

ごみの放置・臭気・騒音・大気・川や海に汚染・害虫の発生等

自分の周りで起こっている問題全てが「環境問題」となる。

#### 「地球環境問題」とは

- ・人類の将来にとって大きな脅威となる、地球的規模あるいは地球的視野にたった環境問題
- ・影響がその地域に留まらず、地域や国などをまたがって出てくる。
- ・誰もが被害者であり、加害者である。

スプレー缶等のフロンガスによるオゾン層の破壊による紫外線 河川・海洋の汚染  
海岸線の侵食 排煙等による大気汚染 . . . .  
身近な問題ではないが関心を持ってもらう事が大切である・

### 「3R」とは

- ・「使い捨て社会」から「循環型社会」に変えていくための合言葉
- ・代表的な3つの取り組みの頭文字

Reduce	(リデュース)	ごみも資源ももともと減らす
Reuse	(リユース)	そのものを繰り返し使う
Recycle	(リサイクル)	資源に戻して再び利用する

#### Reduce (リデュース)

「家庭におけるごみ減量」という視点で、ゴミも資源もともに減らしていくために何がごみになるか考えみましょう。

- 商品の包装材
- レジ袋
- 賞味期限切れの食品
- 食べ残し

各家庭から出されるごみの内容をみるとこのような物になる。

#### ○ 容器包装材の現状

##### 容積比でみると

プラスチック製 約41%	容器包装以外 約40%	紙製容器包装 約13%	ガラス金属容器 約2%
-----------------	----------------	----------------	----------------

##### 重量比でみると

容器包装以外 約77%	紙製容器 約8%	プラスチック製容器 約8%	ガラス金属容器 約7%
----------------	-------------	------------------	----------------

容積の約6割を容器包装材が占めている

#### ○ クイズ 家庭から排出される容器包装ゴミのうち、食品と飲料の容器包装の割合は？

約5割                      約6割                      約7割

#### ○ クイズ 実は商品を購入する際に、容器包装に対してもお金を払っています。

それぞれの容器の値段は？

牛乳パック 5円 10円 15円	ペットボトル 5円 10円 30円	カップ容器 5円 30円 100円	トレイ 1円 5円 500円
---------------------------	----------------------------	----------------------------	-------------------------

それぞれの容器は、大きさや形など異なるので値段に違いがある。

食品の値段の約3割が容器代と考えられる。ゴミとして3割のお金を捨てていることになる。

#### ○ クイズ かつては買い物をする時、お店で配布してくれるレジ袋。

レジ袋は何で出来ているでしょう。

紙                      プラスチック                      布

#### ○ クイズ レジ袋を1枚作るのに、どのくらいの石油が必要なのでしょう？

さかずき1杯                      スポイド1滴                      大きじ1杯(15cc)

#### ○ クイズ 一人が1年間に使用するレジ袋はどのくらいでしょう？

50枚                      150枚                      250枚

#### ○ 生ごみの現状(京都市の例)

	野菜・果物の皮・くず等	手つかず食品	野菜果物	食品以外
平成14年	43%	11%	6%	5%
平成19年	37%	22%	8%	9%

☆ レトルト食品の増加により野菜果物くずの減少 → 食品以外のごみの増加。

☆ 購入した食品を調理もしないで、ごみとして捨てる量が多くなってきた。

☆ 食品以外のごみの量の増加。

- クイズ お茶碗 1 杯分のご飯（0.5 合の米）を作るのに、2 L のペットボトル何本が必要でしょう。

50 本（100ℓ）      135 本（270ℓ）      210 本（420ℓ）

- ☆ 1t の米を作るのに 3600 t の水が必要
  - ☆ 1t の小麦を作るのに 2000 t の水が必要
  - ☆ 1 t のトウモロコシを作るのに 1900 t の水が必要
  - ☆ 1 t の大豆を作るのに 2500 t の水が必要
- 日本は、水資源には恵まれた国ではありますが、多くの労力とエネルギーが使われる。

### Reduce（リデュース）の取り組み

- ◎ 容器包装の少ないものを選ぶ
- ◎ 詰め替え製品を利用する
- ◎ レジ袋をもらわない（マイバックや風呂敷の活用） → レジ袋有料化
- ◎ 買い物はメモを持って、計画的に！（余分な物を買わない）
- ◎ 自分が食べられる量を把握する。残飯ごみの減少

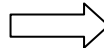
### Reuse（リユース）＝ 繰り返し何回も使う

- ・ 洗って何回も使う
- ・ 家族や知り合いに回して使う
- ・ 飽きたら別の料理にアレンジ
- ・ 多めに作り冷凍食品に
- ・ 形を変えて何度も使う
- ・ 作りすぎたら、おすそわけ

### ○ 冷凍食品の作り方

- ① 大きめの氷が作れる製氷皿を準備
- ② 製氷皿にアルミカップを敷く
- ③ アルミカップにお惣菜を入れて冷凍する

出来上がり

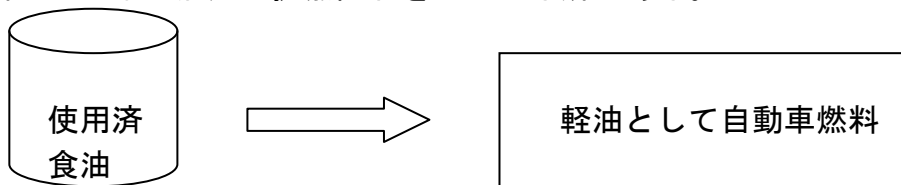


### 食べる時

アルミカップで凍ったまま弁当箱へ。食べる頃には解凍されちょうど良い状態に

### Recycle（リサイクル）

「家庭におけるごみ減量」という視点で、資源として再び利用することを考えてみよう！ 広島県では、市民グループや地域団体において、リサイクルを目的とした廃食用油（使用済みてんぷら油）の拠点回収をしている所がある。




☆ リサイクルショップ → リユースショップという方が正しい。

☆ リサイクルは最後の行程である。

### ○ アルミとスチール

アルミ缶は  のマークが書いてある。

- スチール缶はスチールと書いてある。
- アルミ缶は、集めたものを溶かし、アルミ缶に再生したり、アルミ製品の材料になる。
- スチール缶は、集めたものを溶かし、スチール缶に再生したり、建築材料になる。

- ビンは、砕いて溶かしビンに再生したり、タイル・保温材・吸温材等。
- 紙は、溶かし色抜き等し、再生紙としてコピー用紙・トイレットペーパー・ダンボール等
- 布は、リサイクルというより、海外の支援物資にまわされ、リユースで使う方が多い。
- トレイや発泡スチロール  ほとんどがごみとして埋め立て地に捨てられる。一部のトレイや発泡スチロールは、砕いてプラスチックのペレット状にし、発泡スチロール製品やプラスチック製品に再生する。
- ペットボトルは、ペットボトルに再生したり、きれいに洗い、ペレット状にし、繊維として衣類の材料にする。

☆ ペットボトルの口のサイズはどれも同じサイズ。

☆ リサイクルの条件 いろいろな物を混ぜない（正しく分別をすることが必要）

### Recycle（リサイクル）の注意点

- ・資源として利用するため、正しい分別を！
- ・資源回収に協力しただけでは、リサイクルは完結しない！（再商品化されたものを使って、はじめてリサイクルが完結する）
- ・リサイクルするにも、莫大な「エネルギー」「費用」がかかっていることを忘れない。

### 「ごみ減量・リサイクル」に取り組むために！

毎日の生活の中で改めて考えてみると、過剰包装製品の多いことだ。お菓子ひとつを見ても個々に包装され、改めて数個ごとに袋や箱に詰められている。それがごみとしてだされる。トレイで包装された食品にしても同じである。綺麗にトレイで包装された物でなく中身が必要である。消費者自身が意識を変えていく事も必要だ。

また、買い物にしても無駄な物を買わない為にメモを持って買い物をしたい。つい、衝動買いをすることが多い。買った物が手つかずのごみとして捨てられる量が多くなる傾向がある。

ごみの減量は、まず第1に入ってくるものを減らす。次にできるだけ長く使う。最後にリサイクルできる物は資源としてリサイクルして再利用する。

ごみの減量は、「できることから、無理をしないで3Rに取り組む」ことです。

これで私の話は終わらせてもらいます。ありがとうございました。

### ☆優先順位

一番目 Reduce（リデュース）ごみも資源も減らしていく。

二番目 Reuse（リユース）繰り返し使える物は使う。

三番目 Recycle（リサイクル）資源として再利用する。

はじめから無理せず、できるところから取り組もう！

継続は力なり！続けることで効果が見える！

3Rで脱温暖化にも貢献しよう！

☆ 大変分かり易くお話をしていただき有り難うございました。時間が少し有りますので質問がありましたらどうぞ。

○ ごみを減量させるために、継続が重要であります。続ける為には効果が見える事が必要だと思います。効果や評価する方法はどんなことが有りますか？

※ ごみを排出する時のごみ袋の数や重量によって確かめる事が出来る。

（ごみ袋を持って体重計に乗り、自分の体重を引けばごみの重量が測れる）

ごみの減量は、まず第1は入ってくるごみの量を抑える事。まず自分の家庭の中から

ごみの減量に取り組みましょう。

- 昔は、ごみとか草をどんどん焼いていたが今は焼く事が出来ないのか。
- ※ 広島県は、ダイオキシンの問題で禁止条例でごみを焼く事はできないが、とんど祭りや神事・農業で出てきた草などは焼く事が許可されている。しかし、家庭ごみを混入させて焼く事はできない。
- ペットボトルの再生工場はどれくらいかかるのか。
- ※ 広島県には、ペットボトルの再商品化施設（リサイクル工場）は3箇所あります。三原市・尾道市・福山市にあります。しかし、再生にはコストがかかる事を忘れてはいけない。
- ペットボトルやかん缶のポイ捨てが多いが、以前、飲料水の瓶を持って行ったらお金を返してくれていたが、缶やペットボトルを持って行けば換金してくれる様にすればポイ捨ての現状が少なくなるのでは。
- ※ 容器包装リサイクル法等により、缶・ペットボトル・びん等は回収され、リサイクルされるような仕組みになっている。ポイ捨て等に対応するため、業界でもデポジット制度の検討がされているが、実現には至っていない。
- 手つかず食品を廃棄物として処理されているが、地域の業者が回収したりしていますが、一般廃棄物か産業廃棄物なのか？
- ※ コンビニ等で、手つかずの食品が時間で廃棄されている。これは産業廃棄物です。作るにも食材や労力・エネルギーが必要。廃棄するにもエネルギーや労力が必要。なんとかならないものか。勿体ないことです。
- ☆ それでは質問を終わらせてもらいます。先生ありがとうございました。

高島敏治 副部長

どうも皆様、早朝よりご出席をいただきましてありがとうございました。

先生 長時間に渡りお話をさせていただきありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。最後の挨拶をするようにということですが、会場一杯になり、椅子が足りないくらいの参加を期待しておりましたが、参加者が少なく大変残念に思います。

まあ、一応「のびのび」とリサイクルに取り組むためには、無理をせず、皆さんと一緒に頑張っていきます。大変分かりやすくお話をいただき、ありがとうございました。

